

ノースアメリカン RF-86F セイバー

MONOCHROME 1/144スケールプラスチックキット改造
製作・文：政府開発援助

1. RF-86Fについて

F-86「セイバー」シリーズは1948年にアメリカで試作機がロールアウト、以来A型～L型までの各タイプが開発され、世界25ヶ国で運用された。航空自衛隊では供与機を改修した写真偵察型RF-86Fを配備した。これは機首下面に3台のカメラを搭載したもので、固定武装のバルカン砲は撤去されている。

2. キットについて

モノクロームのF-86Fセイバーのキットは幾つかのバージョンが発売されています。このキットの良いところは、左右つながっていて後ろからはめ込む水平尾翼やダボ穴が長方形の脚柱等、取り付け角度がピッタリと決まるように工夫されているところです。キャノピーは前後分割されており抜群の透明度です。離型剤はかなり強固に残っているので、注意が必要です。



前面より

3. 製作と塗装について

今回は発売初期に流通した航空自衛隊版2機セットのF-40の方を使用しました。離型剤はクレオスのペイントリムーバーで拭き取りました。定番工作として、三点着陸をさせる為の釣り用極小オモりの内蔵や脚カバー等の薄々攻撃を行っています。偵察機型固有の装備は立体定規(フジミの1/72キット)を参照しながらエポキシパテを盛り付けて下面カメラ及び側面のバルジを造形し、機首の機銃孔は塞ぎました。今回スピードブレーキ部分は閉状態としています。

塗装はクレオスの8番の銀を吹いた後、脚収納庫等を主としてエナメル系の調合色の筆塗りで塗り分けました。航空自衛隊供与1号機から改修された機体とすべく、機番のデカールを自作。機首機銃孔のダミーのマーキングはランドマークファクトリーのF86F用デカールを使用しました。



後面より

4. 途中画像



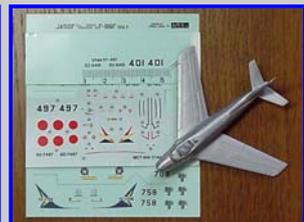
立体定規としてフジミの1/72キットを参考にした。



機首側面のバルジは複製したもの貼り付けている。



機首下面のカメラ部分もエポキシパテで造形。



デカールは機番を自作し一部ランドマークファクトリーのものも使用した。